

No.102

公民館だより

平成9年8月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

由良岳・森ヶ鼻道によせて (八)

館長 山下 清 一

由良川から吹き渡ってくる川風に大きく育った稲が、濃い黄緑の葉を忙しく波うたせながら汗ばんだ額に心地よい涼風を送ってくれます。

由良岳を覆っていた梅雨雲も晴れ渡り、青空に頂上をくつきり浮べ夏の来訪を告げています。

由良川河畔には、三人、四人と釣を楽しむ子供たちの姿にも、長い夏休み初頭の何かほっとしたゆとりが感じられます。

毎年このころになると、私の子供の頃の釣や、梅雨の中頃から夏休みにかけて励んだ、「ク

マソ海老」すきを思い出します。

年配の方々はよくご存知のことですが、「クマソ」とは、大型の手長海老のことです。色は灰褐色で、体長十糎く十七、八糎、頭は大きく頑丈で、両側に

体長より長い鋏を持ち、触角用の長髭をゆらげながら用心深く、藻の間からこちらを覗いている姿は、重厚で精悍そのものです。

藻や葦の間に、蟹や田螺をつぶして仕掛けた撒餌に寄つてきた「クマソ」を、一米くらいの細い竹竿の先端につけた直径十二、三糎、網の深さ十五く二十

糎のたも網で捕まえるのです。

たも網を「海老すきたも」と言い市販のものに手を加え網の輪を縮たり、網を深くしたり、個々工夫した「たも」を持っていました。子供には高価なもので、なかなか買ってもらえず、大切に使つたものです。

「クマソ」の尻尾の方から、静かにそつと「たも」を沈め、間髪をいれず「クマソ」を伏せ、たも網の奥深く飛び込んだのを確かめ、タイミングを計つて抜き揚げるのです。ぶるぶると手に伝わる感触、爽快感、これがいいのです。いいときは、お昼までに三、四十匹の「クマソ」をすくことが出来ました。

昭和二十八年九月、この地方を襲つた十三号台風による豪雨出水のため由良川流域は未曾有の大被害を被りました。出水によりクマソが三匹残らず流出したのか、以来その姿を見ることはありません、どこかで、ひっそりと棲息しているのではない

かと、かすかな希望を捨て切れずにいる此のころです。

六月は衣替の月です。六月一日になると、私たち学童も霜降の夏服に半ズボンとなり、帽子には白い日覆を被せ気分を新しめての登校となりました。

そのころは、今日とは違い農家では田植の最中で、田植に続いて麦刈り、じゃが芋掘り、さつま芋植と、梅雨明けごろまで忙しい毎日が続きました。

学校では、七月十日ごろから短縮授業となつたように覚えています。ギラギラと照りつける熱い日光を浴び吹き出る汗をぬぐいぬぐいの森ヶ鼻道の帰路は随分遠く、一、二年の小学生には息も絶えだえの帰り道であつたように思います。道端で出会つたおばあさんから元氣を出せと励まされ、手に握らせてくれた曲つた胡瓜を餓鬼の如く頬張り、一息つきつき曲りくねつた森ヶ鼻道を急ぎました。学校の道すがら、人懐こい顔

で声をかけてくださった「おっさん」、「おばさん」たちも、いっしょに顔馴染となりました。「何処の子や」と聞かれたり、学校のことを聞かれたりするうちに、親しさが増して行きました。

私たちが〇〇のおじいさん、△△のおばさん、と家や家号も知るようにになりました。それでも最初のうちは恥ずかしくて、唯おっさん！おばさん！とだけ言葉をかけていたのです。

以来六十年近くが過ぎ、私たちを温かく見守って下さった、多くの方々が一人減り二人減り、知らぬ間に私たちがそのころの、おじいさんや、おばさんの年となつてゐるのに驚いています。

寝られない夜など、今は遠くへ逝かれた方々を指折り数えながら、あのときは……と、あれこれ回想に耽つてゐると、不思議と眠りにつけることがあります。

今日由良小では、児童を中心

に挨拶運動が展開され、地区の皆さんにも広く呼びかけられています。

朝の通学路で子供達の明るく元気な、おはよう！の声が聞こえて来ると何か嬉しく、今日一日が楽しく良い日であるように思えて来ます。

お早ようございます。ただ今帰りました。お早よう、お帰り、と唯それだけの言葉のやりとりが温かい交流の積み重ねとなり、知らず知らずのうちに地区の一員としての自己に目覚め、人に優しく思いやりの心、信頼する心の醸成の一助になれば素晴らしいことです。新しく小さな芽が、時を得て大きく育つことを楽しみに、私も挨拶運動に参加したいと思つています。

子供らの声に老いも背をのばし

平成九年度

由良地区公民館役員名簿

【運営審議会委員】

(順不同敬称略)

【分館長】

主事 酒田 治

由良小学校長 角尾 誠

脇自治会長 中井 両太

宮本自治会長 榎岡 功

浜野路自治会長 北野 誠治

港自治会長 川崎 博

下石浦自治会長 野村 正和

上石浦自治会長

山下伊左衛門

市議会議員

前公民館長

学識経験者

由良小PTA会長

栗田中PTA副会長

婦人会会長

老友会会長

子供会連絡協議会会長

公民館長

山下 清一

山下 均

利雄

小西 雅代

脇分館長

宮本分館長

浜野路分館長

港分館長

下石浦分館長

上石浦分館長

北野 隆雄

山本 良和

糸井 治孝

大畑 忠夫

山下 浩二

藤本 光代

山下 正貴

中西 一孝

山田 悦子

山田 一則

中西 隆光

山下 正貴

山下 一孝

山田 悦子

山田 一則

中西 隆光

山下 正貴

山下 一孝

山田 悦子

山下 正貴

山下 一孝

山田 悦子

山田 一則

中西 隆光

山下 正貴

山下 一孝

山田 悦子

山田 一則

中西 隆光

山下 正貴

有本 敬 糸井 博之

山元 正栄 酒田 彰一

中西 幸子 北野美代子

岸田美保子 山下まさ代

堀家多美子

〔体育部講師〕

小室 文雄 北野 薫

岸田 剛 玉垣 泰子

◎前記の委員・役員により次の平成九年度の事業を推進して行きます。皆様方のご支援、ご協力をお願い致します。

事業計画

〔文化部〕

盆踊り大会 八月十四日

文化祭(婦人会と共催)

十一月三日

人権学習会 一月十八日

区民囲碁大会 二月一日

自治学級 二月八日

生涯学習講演会(婦人会と共催)

二月二十二日

生涯学習講座

(高齢化社会懇談会) 年一回

由良歴史年表編さん事業

(各地区訪問聞きとり懇談会周年) 公民館だより発刊 四月・八月・十二月

〔体育部〕

由良岳登山 (第三十二回)

四月二十九日

(雨天、五月三日)

宮津市地区対抗駅伝競走大会

(第九回) 六月一日

地区対抗女子キックベース

ボール大会 (ナイター) 六月八日

六月八日

団体対抗男子ソフトボール大会

(ナイター) 六月九日

宮津ビーチバレー97 七月

球技大会(野球、ソフト) 八月十四日

八月十四日

地区大運動会 九月七日

区民フィットネスクラブ交流会

グラウンドゴルフ(ナイター) 十月十二日

十月十二日

宮津市市民駅伝競走大会

十一月三日

四部対抗男女バレーソフト

ボール大会 二月一日

行事報告

主事 酒田 治

●由良岳登山

四月二十九日(みどりの日)

前日の雨が嘘のように晴れ上がり、官行造林の辺りがどうかなど心配しながら登山の途につきました。

良の嶺「なんて口ずさみながら約十五分西の嶺に到着。真下にエネ研。遠く天橋立が横一文字に見える格別な眺めです。私たちの由良岳。自信のある

昨日の雨で風が涼しく、途中植物の名前を教わり乍ら、コブシの花に迎えられ、分岐点の鞍部へ。後はなだらかな尾根の道を頂上を目指して二五〇m。山頂よりの眺望は何時来ても素晴らしいの一言に尽きます。下山の途中は鞍部より尾根伝いに西の嶺へ約八百五十m……下山の途中にあつてか気分は「るるん」朝日に映ゆる由



お方は是非参加して下さい。

今年、登山に参加された方、最高年齢(八十四歳)山田武様。総勢百三十名でした。

おわりになりましたが、登山道等の整備に当たっていただいた、観光協会、民宿組合等々の関係機関の皆様。

毎年おやつをご寄贈いただいています松原寺様。

書面でありませんが厚くお礼申し上げます。

●第九回宮津市地区対抗駅伝競走大会 六月一日(日)

南部地区の出発地点、由良小学校グラウンドでは、徳田市長の号砲のもと、多くの皆様方のご声援を受け、南部地区、北部地区同時に駅伝のスタート。市の体育館に向かって健脚を競いました。

由良チームも、南部、北部コースにおいて善戦健闘されましたが七位に終わりました。選手の皆様、連日のトレーニング、大会での健走、有難う

ございました。

又選手のご家族の温かいご理解、ご協力。大会を盛り上げて下さった多くの地区の皆様にご厚くお礼申し上げます。

●四部対抗女子キックベースボール大会 六月七日(土) 夜のグラウンド、照明を受けた木々の青さが目にしみる。総勢五十余名の女子キックベースボール大会。

思い切り蹴って飛ばすのがドツチボールもどちに行つてやろうかと考えているらしく、なかなか思う様に行かないのがミソ、それでもそれぞれの応援に応えるため選手の皆様の懸命。

やっと試合も終了したところで成績は次のとおり第二部の健闘を称えます。

- 1位 第二部
- 2位 第三部
- 3位 第一部
- 4位 第四部

●職域対抗ソフトボール

六月八日(日)

雨が降るのか、強い風邪に悩まされ、珍プレー、好プレーの中、若い選手で固めた消防団チームが昨年に続き優勝されました。

- 1位 消防団
- 2位 公民館
- 3位 育友会
- 4位 実業会

●図書を購入しました。里センターの図書室にあります。ご利用下さい。

沃野の伝説 上、下
明治末期の暮らし

気がきく人氣がきかない人
心に残る一〇一の言葉
教科書が教えない歴史

戦後教科書から消された人々
山 姥

死の医学への日記
愛する人が痴呆とよばれて

続千支のE話
不夜城

老いとは何かを伝えたい
患者よがんと闘おう

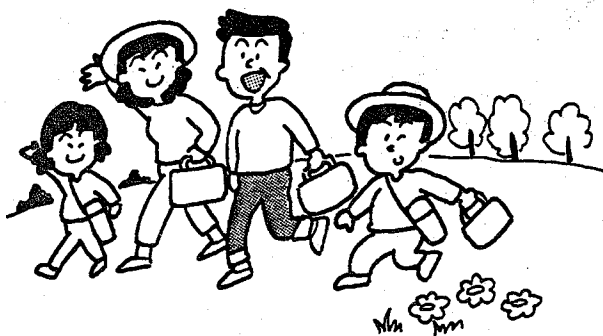
精道百撰

オレ家で死にたいよ

海峡の光

少年H 上、下

大江山鬼伝説殺人事件



伸びる芽を

摘み取ってはいませんか

由良小学校長 角尾 誠

今年も早、一学期が終えようとしていきます。

さて、二十一世紀を担う由良地区の子供達の健全育成を目指して、今年度は特に関係諸団体あげてのご協力の元に、挨拶運動を推進していただいておりますことに對しまして厚くお礼申し上げます。誠に有難うございます。

お陰さまで、園児も児童も昨年度に比べ挨拶が素直に言えたり、返せたり出来るようになってきたと思います。これも家庭や地域で一生懸命取り組んでいただいている結果と思えます。

子供達の様子を觀察して、いますと、いかに家庭教育や地域の教育力が大きいか感じない訳にはいきません。

そんなことを思っている中、

次のような事例を耳にし考えさせられました。

「先生、お母ちゃんが体育を休めと言いなったで体育は休む」聞き返せば何でも無い言葉です。

しかし、休み時間その子供は元気いっぱい遊んでいたのです。担任も変だと思ひ尋ねていました。

少なくとも、中・高学年にもなれば熱があつたり、体の調子が悪かつたら自分の判断で見学するなり参加するなり、意志決定は自分で出来なくてはと思ひます。

家庭での対応はどうだったのでしょうか。

昨夜よほど熱でもあつたのか。調子が悪かつたのか。又、子供は時には親のせいにして休

む場合もあるので、子供に質問をしていました。

問答の末「体育はしたいけどお母さんが休めと言いなったで……」この言葉に、子供の本音を知ると同時に、「主体性の無さ」とあまりにも構い過ぎの結果、

子供自身の判断力を取り上げ『子供を育てる』事を忘れた親の姿がそこに見えた思いでした。

熱も全くなく元気な子供、本当は遊び回りたいのです。体育もしたいのです。

こんな例もありました。忘れ物を注意したところ「お母ちゃんが入れてくれなんだで……」ここにも構い過ぎの姿があります。

忘れ物を親のせいにして、自ら物事に取り組む意欲のない、ひ弱な他人任せの子供の姿。

まだまだ他にも色々々と気になる言動があります。

言葉が殺し文句となり、何でも買ひ与える親の甘さ、又、過保護・過干涉これでは子供の持っている芽を摘み取り、伸ばさないう様にしているのもうなずけます。

「学ぶことは、真似をする」とから始まる」と言われま

す。子供は色々な体験等を通して、自分で課題を見つけ、正しい認識を得、判断し、歩みながら学んでいくものです。そして、その力が将来、主体的に『生きる力』となるのです。

つい我慢が出来ず、親がすぐ判断したり、先取りをし口出ししたりしていると親の判断を頼りにする依頼心の強い、いつになっても自立心の育たない子供になってしまいます。

子供達がこのまま成長すれば大学入試や入社式に、新婚旅行に鼻髭を生やしながら保護者の付添……

笑い事ではないことが起こっています。現にその現象は



すでに一部には見られるので
す。

『過ぎたるは及ばざるが如し』
と言います。

思いやりも度を超すと、子供
の健全な発達を阻害し、伸びよ
うと一生懸命頑張っている芽ま
で摘み取ったり、切り落としたり
りする事になるのではないで
しょうか。

今一度、学校教育も含めて、
子育て・躾等について見つめ直
し、真剣に考えて見る時ではな
いでしょうか。

私の思う事

由良子供会連絡協議会会長

榎田 衛

昨今のメディア各社の報道で
は「戦後最大の失敗は教育であ
る」と言われており、これを裏
付けるような出来事が次々と全
国で発生してきています。

教育問題が論議される場合に
は必ず「教育とは何なのか」と
言う事が問われますがこれは昔
から変わらな三つの柱の上に
立っていると言われ、すなわち
「知育」「徳育」「体育」です。

「知育」偏重の教育が色々な
問題の引き金となつていている事が
種々の論議の中で明らかとなつ
てきました。そこで「徳育」の
部分が必要だという事で、人格
の形成をさせなければならぬ
と言う論議がなされるようにな
つてきました。

確かに人格の形成を促し一個
人としての自立心を培うことも

大切ですが、最も基本的な部分
は「体育」の部分ではないで
しょうか。これは運動能力の体
力だけではなく、人間が血の
通った肉体を持った存在である
という事を学び育むことです。

子供達の生活の中でごく当た
り前な遊び、親子や地区の大人
とのコミュニケーションの中で
自分が地区の一員である事を自
覚し、「徳育」の部分と相まっ
て人間として大きく成長してほ
しいと思うのです。

由良小学校で取り組んでいる
あいさつ運動では、だんだんと
子供達が自発的にあいさつがで
きるようになってきたと聞いて
おります。気持ちよくあいさつ
を交わす事が子供達とのコミュ
ニケーションの橋渡しとなり子
供たち一人一人が子供らしく成

長することの一助となると思
います。大人からも進んであい
さつを交わし子供達とのコミュ
ニケーションを大切にして頂き
ますようお願いいたします。

最後になりましたが、由良子
供会連絡協議会の運営に対し、
諸団体各位を始め地区の皆様方
には、平素からご指導ご協力を
賜り厚くお礼申し上げます。



心の成長を願う

栗田中学校長

安田 宏 幸

現在、社会の発展は目をみはるものがあります。毎日のように激しく進歩する物質文明の中で私たちの精神生活はどうなっているのでしょうか。残念ながら精神面の進歩は遅れているようです。とりわけ精神作用を基盤とする教育はどうあるべきなのか、またどう対応すべきか考えてみなければなりません。

「もの栄えて心が滅ぶ」と言われていますが、今私たちはこのことを深く考えてみる必要があります。人間は心が育たなければ、ものの恩恵を受ける資格はないと思います。また、本当の意味での幸せな生活はおくれないと信じています。こうした前提に立って、私は次の三つのことを教育の中に取り入れ、日々生徒諸君に接しています。

- 一つは「人の心のわかる人間になること」
- 二つは「物事はやる気になつてする人間になること」
- 三つは「けじめのつく人間になること」

以上は人間社会で生きる基本であり、これなくして豊かな人間関係は維持することは出来ません。「感謝の気持ち」「親切」「尊敬の念」「謙讓の念」等は、この三つのことを身につけ、さらに色々なことを体験することによって育つものと思います。

物質的繁栄は限りなく続くでしょうが、人が人として暮らすことは変わりありません。人の心が物の繁栄の陰で失われないう教育はあるべきだと信じています。

神戸市須磨区の事件で中学三年生が容疑者として逮捕されたことについて、京都府教育委員会安原教育長は「今回の事件は『心の教育』の重要性を改めて浮き彫りにした」と述べられています。本校でも緊急の課題として◇豊かな人間性の育成◇生命と人権の尊重◇家庭や地域社会との連携を重点に頑張ります。ご協力ご指導よろしくお願ひ致します。



役員になって思うこと

中 西 幸 子

此の度公民館の方より原稿の依頼を受けましたが、この様な事は、私の最も苦手とする分野でまとまりの無い文になると思いますがお許し下さい。

私事ではありますが、平成九年明けて六日に姑が長年の持病が元で永眠いたしました。葬儀に関しては、地区の皆様には、大変お世話に成りました。納骨も無事終わりホット一息ついたその日、婦人会の前役員様より今年度の会長に決まったとの連絡を聞きました。晴天の霹靂とはこの様な事を云うのでしょうか。とてもそんな大役が務まる器でもない事は、自分が一番良く知っているのでお断りしていたのですが、今迄の事に拘わらず、自分色でやってみたら、よいと云ってもらったのと、以前読んだ本の中の私の好きな言

葉を思い出しました。"人生で起きるすべての事は、その人にとって、必要であり、その人の生長のために起こることであり逃げては駄目、あきらめても駄目、やれば必ず道は開けると。"その二つの言葉を信じて、大役をお受けする事に決めました。

とは云うものの婦人会の年間行事は、多々有り連合婦人会、地域婦人会と盛り沢山です。五月には、社会見学旅行。又今年は七月六日の盛暑の中宮津市女性スポーツフェスティバルが開かれ、我が由良チームは参加チームの中で一番多い八十余名の参加者がありました。暑い室内でしたが和気あいあいの内に子供さん共々競技に応援に良い汗を流しました。良い汗の結果は第三位でしたが、綱引きに対しては、特別賞を頂きました。閉会

式に表彰台の前に出た時、何か大事を成しとげた時の様な感激で胸がいっぱいになりました。参加して下さいました皆様。本当に有難うございました。最近良く耳にします、参画と云う言葉があります。フェスティバルでも、その他の行事にしても、会員の皆様、協力してやるのではなくて、参加するという気持ちになつてこそ成功するし又、自分のものになると思います。

私の目標は、役員だけの婦人会にならない様、"すべての会員さんと共に"としました。最近、仕事を持つ主婦が多くなつていますが、時間の許す限り、皆様どうか積極的に参加して下さい。その度に何かきつと得るものがあると思えます。先月宮津の理事会での事ですが、新しい意見が出たとき会長が「はい、新しい風はどんどん取り入れましょう」と云われました。そう、私もこの一年この風を入れる役をさせてもらおうと、思いま

した。この新しい風を入れると云う事は、どの団体でも共通する事だと思えます。地域の会合でのことですが、「どうせ若い者の意見は、通らないから」と云う様な言葉を聞き、本当に残念に思いました。社会は目まぐるしく移り変わっています。伝統は守らなくてはいけません。が、若い人達の意見も受け入れられる様な、地域になつてほしいと思えます。微力ではありますが地域の活性化に少しでも婦人会ならではの役目があれば、うれしいと思えます。纏まりのない文章になりましたが思っている事を書かせていただきました。此の一年、三人のスタッフに助けられ、又会員の皆さんに助けられての一年になると思えますが、どうせなら、やらせてもらつて良かったと云えるよう、人との出会いを大切に、沢山の経験をさせて頂こうと思つています。どうぞよろしくお願ひします。

「あいさつ、対話で

コミュニケーションづくり

由良小学校PTA会長 瀬田吉雄

日頃よりPTA活動に対して暖かいご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さあ子供達は夏休み、各家庭も大変であろうと思う。両親がつとめで子供さんだけの留守番の家、夏休みに向い学校、子供会と多くの行事がある中、事故の無い楽しい夏休みを過ごしてほしいと心から願います。

先日母親委員会、地区懇談会が行われ、「あいさつは心と心をつなぐかけはし」をテーマに話し合いが進みました。大きな声であいさつを、朝の「おはよう」「こんにちは」「お帰り」などその話の中で、家の中ではちょっと恥ずかしい、お母さんには言えるがお父さんには言えないなど、又「ごめんなさい」が言えない子、中学生にもなるとすくなく生意気になり口をきかなくな

る時期もあるが、小学生時代はまだまだ素直、常に大人の方からはつきりとあいさつを、自分の中でも他人の子でもあいさつ一つでその日の子供達の様子が分かるのではないだろうか。

もう一点はおこづかいの事も問題になりました。お金は与えない、使わせない、は小学生では基本ではあるうが、お金を使う、使い方を知る、も上級生にもなれば必要かと思う。お金の上手な使い方、大切さも子供たちの話の中でしていかなくてはいいけない事。どの家庭でも多くの問題はあると思うが、叱ることも大切だが、ほめてやる事はもつと大切、家庭内での対話を持つて家族のコミュニケーション作りがいまの親の義務ではないでしょうか。

駅伝

由良小学校六年 山田俊喜

四月の終わりも近づいた日、思いがけず駅伝選手にとのいらがなくなりました。何も深く考えることなく、出場の返事をしたまではいいが毎日、毎日の練習も日が経つにつれ、足は痛いし、

厳しくなり、雨を待っているもう一人の自分との戦いがおそつて来ました。(ゆつくりごはんも食べたいなあ、テレビも見たいなあ……いいじゃないか休めばと。)何とか練習も、最後に近づいた頃には試走もあつて、毎日走っている学校とはちがつて、目の前が明るくなつた気分でした。

「いよいよだなあ、思いっきり走るぞ。」

との思いの割には、好成绩を残すことは出来ませんでした、弱い自分との戦い、そして今まで知らなかつた人との出会いな

ど、僕にはいつもとは違つた良い経験だつたと思つています。色々お世話になつた人達に、お礼を言いたい気持ちです。



駅伝

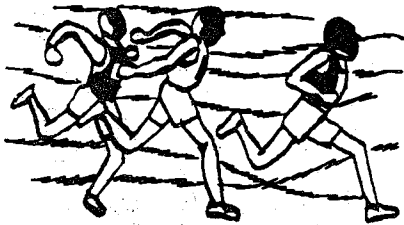
由良小学校六年

酒本 美奈子

五月の休みが終わった頃、駅伝の練習に行く事になりました。最初はえらいしテレビが見たくて行きたくなかったです。けど、行き出すとえらいけど駅伝に出場したくて頑張りました。毎日三㎞くらい走りました。そして、当日。栗田の脇公民館に行くのと知っている子が、大勢いました。準備体そうをしていると津田のおっちゃんが来てくれました。一緒に走ってもらいました。そして、「宮津」「城東」と次々に呼ばれていつ「由良」の番がとうとう来ました。たすきをもらった時『がんばろう』と思つて走りました。道路にいる人みんな応援してくれて嬉しかったです。津田のおっちゃんが見えました。真剣に力をふりしぼって走りまし

た。たすきをわたしたしゅん間、「終わった!」と思いました。記録は五分ちよつとでした。すごくおそかったです。けれどそれでも区間五位だったので良かったです。

タイムは遅かったけれど私は一生けん命走れたと思います。駅伝の選手に選ばれて良かったです。と思いました。



駅伝

栗田中学校

田中 清貴

今年も市民駅伝の選手に選ばれました。僕は、また毎晩練習せなあかんと思ひながらも、少しずつうれしく思っていました。毎晩練習が続きました。えらい日もあつたけど、がんばりました。大人の人がいない時は、先頭に立つて練習しました。そしてついに六月一日、大会の日が来ました。僕は、北部コースの3区を任されています。試走の時3区を走つたけど思うようなタイムがだせなかつたので不安でした。とにかくタスキを確実に次のランナーにわたそうとそれだけを考えていました。アップをしている時、周りの選手が目に入りました。速そうな人が何人もいました。でも、負けるわけにはいかんと気をひきしめました。

招集のコールが鳴りました。

このとき少し緊張しました。そしてトップのランナーがタスキをわたしました。僕はよしやるぞとこの時思っていました。2区の津田君から、タスキを受け取り走りだしました。落ちついてはじめは走ろうと思つていましたが、接戦だったので最初に力がいってしまいました。2人抜かしたけど、後から2人にぬかされました。最後までかかけられずはなされました。でもタスキは次のランナーにわたせました。僕は少しいが残りました。でも走ったあとには気持ち良かったです。

テントにもどつて、かやくごはんを食べました。とてもおいしかったです。応援してくださつたみなさんありがとうございました。

川柳

宮津番傘川柳会

潮騒

藤本史代

ユーモアの話術睡魔を寄せ付けぬ
喜怒哀楽百面相の保育室

田村キヌエ

家中の定めそれぞれ動きだす
うす塩が知らせてくれる血圧計

磯田栄

乾杯のグラスに充ちる感無量
曼陀羅の鐘と静かに響き合う

大森美智子

琴線に触れることばが雲を切る
ネクラの手笑い袋が演技する

飯沢鳴窓



出奔のこころ誘う潮騒は春の渚に飛沫を散らす

憧れは常に追いつくものとして潮満ちてくる渚を駈ける

愛憎のかつてのこころ懐かしむ春の流れの水に屈めば

風に散り雨に褪せゆくさくら花ひとつ洩らさず保身のことば

感情の加速促すことばなど想いつつ挿す朱のガーベラ

持みがたき現にとおき六月の海緩やかにヨット浮ばす

現には成らざることのみ語りいしかの夏青き風をまといて

ガラス器の葡萄の香り滴ればわが瞑想にディオニユソツ顕つ

ゆるやかに季節を区切りゆく雨に流してしまふ憂いすつぱり

落日のあとの静けさ曳きてこし翳ゆつたりとのまれゆくなり

四部対抗女子キックベース ボール大会に参加して

小西 雅代

昨年は雨で中止となったこともあって、今年はどうかと心配しながら、半ば無理やり頼み込んでやつと選手を集め参加したキックベースボール。

グラウンドコンディションはまずまず。五回を終えて同点の第一試合(対港・石浦チーム)。延長戦に入ると思っていたら、じゃんけんで勝敗を決めることになり、なんと私たちのチームが勝ってしまいました。

優勝は無理でも、くれぐれも怪我のないように楽しもうと臨んだ試合でしたが、勝利の女神が私たち、宮本チームに微笑んで下さったのか、第二試合でも、浜野路チームに勝つことができ、予想外のことだけに、チームの面々は感激。大変有意義な一時が過ごせたのではな

いかと思つています。

冬に行われるバレーボール大会とはまた一味違い、経験や特別な技術を必要とせず誰もが同じようなレベル上で楽しむことができた今回のニュースポーツ「キックベースボール」。どちらかといえばスポーツに親む機会不足の今日こうした手軽なスポーツ大会もとても良い企画だと思います。



子供達と登った由良岳

吉岡 千秋

今年で、二回目の由良岳登山。きつかけは、主人の生まれ育った由良の町が一望出来る由良岳へ、登ってみようか?でした。

長男は、一昨年主人に肩車をしてもらって二人で登りました。去年は、娘が主人に肩車をしてもらって、長男は、私と一緒に歩いて登りました。

今年も、長男が前日まで、「やめしかげみだつたので、「やめようか」と話していたところ、どうしても「登りたいなあ」と言う事で、それなら、子供3人を連れて「登ろう」という事になり、また、主人が二男を肩車して、みんなで登ることに……長男は、途中でせきこみしんどそうでしたが「しんどかったらもう下りようか?」という顔を横にふり、登りはじめま

した。少ずつ、強くなつてるなつと思いましたが、いつもこの調子だともつといいのにも、とも欲ばつて思つてしまいました。

子供のペースで登るので、私もけつこうしんどくて、子供に「がんばれ!」と声をかけながら自分自身にも「もう少し、もう少し。」といいきかせながら登りました。

頂上に着くと、子供達は、もう大はしやぎ、私もすばらしい景色に、疲れを忘れさせられる一瞬を過ごしました。

この先、何度子供達と一緒に登れるかわからないけれど、できる限り登りたいと思います。今度、登った時は、橋立の景色も眺められれば、と思います。

姉妹都市

ニュージージーランド・ネルソン市と

宮津市の国際交流

中西 六右衛門

今春三月、十年ぶりにニュージージーランド（以後NZと記す）ネルソン市を訪問して参りました。その旅行記の前に現在の宮津市の国際交流の状況について少し述べます。（これは私の宮津NZ協会及同国際交流協会長としての責務とお許し下さい）私達の宮津市は先の矢野市長の時代から国際交流に積極的に取り組み、前尾元衆議院議長がNZを訪問された時、当時のNZ国会議長がネルソン市出身であり郷土を愛する両氏の姉妹都市盟約が結ばれて二十年。アメリカ、デルレイビーチ市とは、宮津出身の森上助次氏が十九歳で移民し、彼地で大成功され土地六十余ヘクタールを寄贈され、そこに森上公園、同大和館、同博物館が建設されるのを機に提

携をして二十年、そして中国秦皇島市と日本の東西南の三都市と友好交流関係を持ち、近年その交流は一段と充実しております。それも現徳田市長の市民一人ひとりが国際理解を深め、世界の人々と交流の中で自らの視野を広げ、人生を豊かにし、国境を越えた平和な社会を作ると共に、国際的視野を持った若者を育てたいとの思いがその推進をなしており、現在は当初の行政主体、相互表敬訪問から市民レベルの交流に進んでおります。特にNZとは青少年の交流が盛んに実施されています。今回の訪問はNZネルソン市で開かれます国際姉妹都市会議とジャパンウィーク宮津フェスティバルに参加するために、私達の協会が設立十周年の事業と

して計画実施した市民レベルの訪問であります。もちろん市からは多大な後援をして頂きましたが、会議出席、日本週間と祭りでのお茶、生花、折紙のデモンストレーションのため適任者をお願いして総勢十九名で参加致しました。NZと日本とは時差二時間、四季は日本と反対です。ネルソン市（NZで最初に市政がしかれ市名も有名なネルソン提督に由来する）は人口四万四千人、NZの南島の西北にある温かい海に面した農林漁業と観光の豊かな街です。閑空からの直行便は快適に春の日本から中秋のNZオークランドに到着致しました。私と栗田副団長の二人は別れて会議に出席し、他の方々は非常に美しく伝統ある街クラストチャーチを視察し、NZの生い立ちや歴史に触れて頂きました。国際会議はNZと参加国の国旗掲揚に始まります。いつか国旗に反対していた国から来た我々は感慨深く

異国での日の丸に敬意を表しました。国際交流の实情報告も盟約の古い宮津からスピーチ致しました。内容は『国の立場立場で交流の持ち方が異なる中、世界的に経済の活性化と経済交流の要求が強いが、相互の親善交流を通じ信頼が生まれ、文化的経済的交流へと発展して行くものであり、現実を見つめつつ将来に展望する地道な具体的で永い行動が必要ではなかるうか』と云う様な事です。余談ですが、冒頭に『持ち時間が少なく出席者に必要なのは通訳された英語だと思つたので原文はスピードアップします』に笑いと拍手を頂き、終了後各国から原稿を求められ嬉しく思いました。適当なジョークも国際的には必要かを感じました。宮津祭りでのお茶、生花、折紙の様子や市民の反響、受け取り方等ネルソンの日本人の現状、NZと日本の比較など機会があれば報告させて頂きます。

澤井市造話題の転載を終えて

由良の歴史をさぐる会

四方 寿 朗

澤井市造翁は嘉永三年一月由良に生まれ、この年早くも父を亡くした。母はやむなく三児を連れて父の兄と再婚した。しかし六歳でその母をも失った。孤児となった翁は、小室末蔵に嫁していた叔母の手で、大切に育てられた。九歳になって由良の医師林秦仲氏の許へ学問に通わされた。腕白で手がつけられぬ餓鬼大将であった。本家叔父の澤井長兵衛宅へ近所の親たちから苦情が殺到した。

十五歳で船頭見習となり、以後北海道航路で活躍し、一時は函館で海産業を営み、巨利を得た。しかし忽ちにして事業に失敗し、放浪の後、明治十二年札幌で松本壮一郎という工学博士のもとで、鉄道工夫となった。明治十八年碓氷峠、二十年阿部

川の橋梁工事、二十一年大阪鉄道、二十三年北海道室蘭鉄道工事を請負う。このとき不幸にして大阪地方裁判所に勾引され、間もなく青天白日の身となる。

明治二十六年有馬組の人となり、北陸鉄道工事に従事す。二十八年有馬組工事部長に昇身、台湾へ渡る。その後台湾の多くの鉄道工事に従事し、二十九年台湾総督府の五千余坪の官舎の建設に従事す。この工事で再び疑獄おこるも、四百余日で無罪放免となる。以来台湾で各種の土木建設工事を請負う。台湾での総請負金額は千八百余萬円以上と言う。

この間、内地においても多くの鉄道工事を手がけた事は、先の公民館だより第95号に記載した通りである。

又、明治三十七年日露戦争の最中、日本軍の燃料不足を知つて三千噸の船を借り受け、木炭数万俵を満州へ輸送し、軍を相手に商売を計った。

明治四十五年七月、六十三歳で波瀾万丈の生涯を閉じた。死因は急性大腸炎であった。

平成四年四月発刊の公民館だより第86号から始めた転載をこのたび無事終了することが出来た。澤井澄子さんからこの大切な原本を、長い間拝借していた、これでやつと肩の荷が降りた気がする。私は最初あまり長編なので、これを要約して紹介しようと考えていた処、小谷一郎氏から「是非原文全部を」との助言を受けた。そこで公民館のお許しを得て、十四回、五年の長期にわたつて貴重な紙面をお借りした次第。その結果、翁の豪放磊落な生涯を直接作者の筆で伝えることが出来た。又幕末から明治の終わりまでの激動の時代、由良の様々な様子や世

相、村民の生活などを正確に伝える貴重な資料を、皆さんに紹介することが出来た。

連載の初めにも書いたが、終りにのぞんでもう一度私の願いを、繰り返し述べる。由良小学校の校歌にもうたわれているように、海、山、川の雄大素朴な大自然の中で育つた偉人。しかも物心両面にわたつて由良のために数々の貢献をされた澤井市造翁を郷土の誇りと讃え、満腔の感謝を皆さんと共に申し上げたい。子供の育つ環境として大切なのは、美しい自然と、その自然を心から愛する人々だ。にせもの自然じかない街、本当の自然の厳しさ、やさしさ、美しさを知らない人々の多い日本の今の都会は、子供の育つ環境ではない。来るべき二十一世紀に世界を動かすような、大きな志を持った人物が、この由良の地から育つことを私は期待し、願っている。由良の少年よ！青年よ！大志をいだけ。

編集後記

今年も暑い夏がやって参りました。子供たちにとり安全で、楽しく思い出深い夏休みであることを念じながら、由良海水浴場の賑わいを切に祈ります。

地区公民館も皆様の温かいご指導とご支援をいただきながら活動を進めています。

お盆恒例の球技大会に続き今年は二年に一度の地区大運動会が九月七日に開催されることとなりました。好天のもと多くの皆様のご参加を得て、盛大に楽しい運動会が出来ますよう地区の皆様のご協力をお願いします。

山下 記



お詫びと

訂正のお願い

公民館だよりNo101号(既発刊)の一部記述が欠落し、皆様にご迷惑をおかけしました、深くお詫び致します。お手数ながらNo101号三ページ、二段目、左から

三行目の四方寿朗先生の「生涯学習講演会」演題の「成人病の周辺・最近の話題」を「成人病(生活習慣病)とその周辺・最近の話題」に訂正。

三段目の、「ガン予防の切札」の左側空欄に、左記説明絵図を追加して下さい。

「ガン予防の切札」添付絵図 緑黄色野菜が切り札 カロチン多いと効果

V カロチンの主な供給源
(数字は100g当たりのカロチン量=mg)

緑黄色野菜	
ニンジン 7.3	ホウレンソウ 8.1
シュンギク 3.4	コマツナ 3.3
カボチャ 0.7	トマト 0.4
タイコンの葉 2.6	ネギ 0.9
ニラ 3.3	ブロッコリー 0.7
海藻	
ワカメ 8.7	マビキナ 1.7
アオシロ 25	ピーマン 0.3
コンブ 1.8	アオシロ 8.7
	パセリ 7.5

十三ページ下段の題字が「今回の由良用堤防建設計画について」となっていますが、これは、由良川の誤字で、用を川と訂正して下さいますようお願い致します。

